

◎つつみ病理診断科クリニック◎

院長:堤 寛 Yutaka Tsutsumi, M.D.

(医学博士・病理専門医・細胞診専門医・感染管理医)

本クリニックは、病理診断に特化した医療機関です。

診察、投薬、治療は行いません。病理診断とは、標本を顕微鏡でみて病気の最終診断を病理診断書に記載します。

当院に病理診断のセカンドオピニオンを求めて来院される場合、あなたがかかっている病院から「病理標本」を借りて、持参・郵送(割れ物注意)してください。その標本をみて、病理診断の詳しい説明をセカンドオピニオンとして行います。2021年9月よりクリニック内にラボを併設し、免疫染色が可能となりました。

◎診療時間◎

◎水曜日

9:00～14:00

◎木曜日、金曜日、土曜日

9:00～14:00 & 14:00～19:00

★休診日:月曜日、火曜日、日曜日、祝日

★セカンドオピニオン:自由診療 30分 5,000円

◎予約制(まずは、事前に下記迄、連絡をください)

電話:0587-96-7088

FAX: 0587-96-7098

Email: pathos223@kind.ocn.ne.jp

◎交通◎

名鉄名古屋本線「国府宮」下車、バスで「^{やわせ}矢合観音」下車、バス停前の横断歩道を渡り、矢合観音の方に行かず、横断したら左へ。道なりに徒歩3分ほど歩きます。手押し歩行者用信号と横断歩道があり、そのすぐ先右手にある平屋の建物です。

★お車の方へ→「尾張国分寺」駐車場をご利用ください。

◎病理診断とは？◎

病院で行う医療行為は「診断」と「治療」に分けられます。正しい治療には正確な診断が必要です。診断には診察のほかさまざな検査があり、病理医は「病理診断」を担当します。病理診断には病理標本が必要で、病理標本は内視鏡、メスや針で採取された(生検された)組織や手術で大きく切り取った臓器がホルマリンで固定された後、顕微鏡用の病理標本(プレパラート)がつけられます。病理標本を顕微鏡でみて病理診断を行う、つまり、病気の診断をくださるのが病理医です。病理診断によって、その後の治療方針が決まり、処方される薬が決まります。

◎こんなとき、もっと、病理医の説明がほしい！◎

「がんと診断された。これから手術だが、自分のがんはいつたいどんなチナなのだろう？」治療に向かうとき、もっと自分の病気について詳しく知りたいと思いませんか？

◎病理診断のセカンドオピニオンを受けるとき・・・◎

当クリニックは病理診断に特化したクリニックです。病理診断に関して、より詳細な説明を希望される場合、当クリニックへご来院ください。まず、ご自身がかかっている医療機関から病理標本(生検、手術、細胞診)を借りてください。担当医に相談すれば、必ず借りられるでしょう。受診した医療機関での病理診断報告書の写しをご持参ください。万が一、病理標本が借りにくい場合はご相談ください。病理標本が複数ある場合がありますので、すべての標本を借りてください。

病理診断を意見書(診断書)の作成には、しばしば、じっくりと標本を観察する必要があります。できれば、借りた標本は、当院へ当日持参するのではなく、来院前に郵送あるいは宅配で当院宛てに郵送・宅配でお送りくださるのが望ましいです。その際、必ず、「われもの注意」「ガラス標本在中」と赤字表記をしてください。

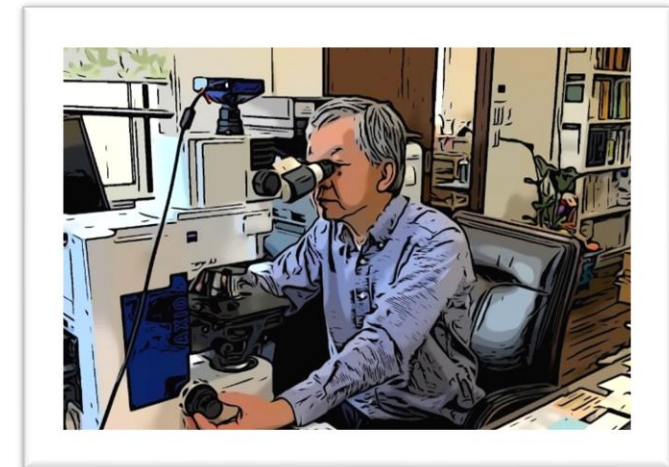
順序→ ①まず一度お電話ください。②標本を借りてください。③予約の電話をください。④標本を送ってください。⑤来院。

つつみ病理診断科クリニック

(保険医療機関 3901791) 病理診断科

院長 ^{つつみ} ^{ゆたか} 堤 寛

医学博士・病理専門医・細胞診専門医
ICD(インフェクションコントロールドクター)



〒492-8342 愛知県稲沢市^{やわせ}矢合町^{さんきち}三吉跡 1551-1

電話:0587-96-7088

FAX:0587-96-7098

Email: pathos223@kind.ocn.ne.jp

URL: <https://pathos223clinic.com>

◎つつみ病理診断科クリニック院長：堤寛◎



1951年9月9日横浜生まれ。
1976年、慶應義塾大学医学部卒業。1980年3月同大学大学院(病理系)修了。医学博士。
1980年4月、東海大学医学部に移動し21年間在籍。

2001年6月、愛知県豊明市にある、藤田医科大学(もと藤田保健衛生大学)医学部第一病理学、教授に就任。2017年3月、定年退職。2017年4月、愛知県清須市にある、はるひ呼吸器病院病理診断科、病理部長に就任。同時に「つつみ病理診断所」を豊明市前後町に開設。2019年10月、名古屋市緑区有松の旧東海道沿いの旧家の一角を借りて、つつみ病理診断科クリニックを開院。2021年3月名古屋市緑区有松より転居。稲沢市矢合町につつみ病理診断科クリニック開設。

◎資格◎

医師免許第231619号(1976.6)、剖検医第3631号(1979.9)、医学博士(慶應義塾大学大学院第649号、1982.3)、病理専門医第885号(日本病理学会、1982.3)、病理専門医研修指導医第885号(日本病理学会、2006.4)、病理専門医第24-00885号(日本専門医機構、2017.3)、細胞診専門医・指導医第768号(日本臨床細胞学会、1987.12)、教育研修指導医第0274号(日本臨床細胞学会、2015.4)、Infection Control Doctor 第1号/3586号(日本感染症学会、2000.1、2011.1)

◎研究テーマ・得意分野◎

病理技術(病理診断、酵素抗体法・免疫染色、アポトーシスの組織化学、酵素抗原法、NETSの組織化学)、感染症の病理、乳がんの病理診断(とくにアポクリンがんの重要性)、院内感染、業務感染、医療廃棄物適正処理、安全教育、医療倫理。

◎学会委員等◎

日本病理学会(学術評議員、病理専門医、Pathology International 常任刊行委員)、日本臨床細胞学会(細胞診専門医・指導医、功労会員)、日本組織細胞化学会(評議員、功労会員)、日本感染症学会(Infection Control Doctor)、日本医学教育学会(功労会員)、医療の安全に関する研究会(常任理事)、「医と食」編集委員、「医学のあゆみ」もと編集委員、など

◎趣味◎

オーボエ演奏(演奏歴30年。ボランティア演奏。)

◎院長のつぶやき◎

病理診断を^{なりわい}生業とする診断医です。診察や投薬や治療行為はしません、できません。病理診断科には、すべての臨床科から検体が送られてきます。その検体からつくられる病理標本を顕微鏡でみて、診断をくださいます。つまり、さまざまな病気に対して幅広い知識をもっている病気の専門家ともいえる医師なのです。正しい診断は適切な治療の基本です。私自身は大学に長く籍を置いて、数えきれないほどの病理診断をしてきました。そして、20年以上にわたって、病理診断のセカンドオピニオンを受けてきました。そこで知りました。患者さんは担当医に聞きたいことを十分に聞いているとは限らないことを。とくに、病理診断という専門性の高い領域の説明に関して、担当医はあまり得意ではないのです。だから、診断をくださった病理医自身が患者さんにていねいに説明することが求められることも知りました。

大学を定年退職した機会に病理診断科クリニックを開院しました。通常の病理診断に加えて病理診断のセカンドオピニオンと病気のよろず相談を受けています。どうかお気軽におたずねください。

◎著書◎

発刊した著書の情報は、<https://pathos223clinic.com> に、アップされています。★当院でお買い求めできます。



★2022年:SDGsってなあに? パトジェンアーツ出版

★2020年:コロナのこと おしえて! パトス先生、パトジェンアーツ出版、本文:堤寛、アート:堤久美

★2020年:感染症大全、病理医だけが知っているウイルス・細菌・寄生虫の話。飛鳥新社

★2012年:患者さんに顔の見える病理医からのメッセージ。あなたの“がん”の治し方は病理診断が決める!三恵社。

★2010年:父たちの大東亜戦争。戦地シンガポール・スマトラの意外な日々。幻冬舎ルネサンス。

★2007年:完全病理学各論全12巻。学際企画。単著

★2006年:パワーアップ問題演習病理学。サイオ出版。単著

★2006年:新クイックマスター病理学。サイオ出版。単著

★2005年:完全病理学総論。医学教育出版社。単著

★2002年:改訂四版渡辺・中根 酵素抗体法。学際企画。共著

★2001年:病院でもらう病気で死ぬな! 現役医師が問う、日本の病院の非常識度。角川書店

★2001年:病理医があかす たちのいいがん、悪いがん。最新診断・治療ガイド。双葉社

★2000年:感染症病理アトラス。文光堂。単著